

びわ湖の日30周年事業【概要】

びわ湖とつながる、びわ湖と生きる

(琵琶湖環境部環境政策課) [予算額 38,216千円]



資-琵琶環1

環境政策課
内線3353

経緯

県民による石けん運動の盛り上がりなどを背景に1980年(昭和55年)7月1日、滋賀県は全国に先駆けて、琵琶湖の富栄養化の原因となる窒素、リンの排出規制等を定めた「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(琵琶湖条例)を施行しました。

その翌年、琵琶湖条例の施行1周年を記念して、7月1日を「びわ湖の日」とすることに決定しました。そして、びわ湖の日が定められてから、2011年(平成23年)で30周年を迎えます。

「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(琵琶湖条例)を施行

1980年(昭和55年)7月1日

琵琶湖条例の施行1周年を記念して、7月1日を「びわ湖の日」とすることに決定

1981年(昭和56年)7月1日

びわ湖の日
30周年

2011年(平成23年)7月1日

目的

びわ湖の日30周年を契機に、これまで行われてきた「みんなでびわ湖をきれいにすること」に加え、「豊かなびわ湖を取り戻すこと」そして「びわ湖にもっと関わること」がびわ湖の日の取組として広く展開されることを目的とします。

びわ湖を取り巻く課題は多様化

生物相の変化

湖底の低酸素化

暮らしとびわ湖の関わりの変化

びわ湖の日30周年の呼びかけ

びわ湖をきれいにしよう

豊かなびわ湖を取り戻そう

びわ湖にもっと関わろう

びわ湖の日の取組を幅広く情報発信し、事業への参加を呼びかけるほか、様々な啓発活動の中でも下流域への周知と事業への参加を呼びかけます。



展開の柱

- びわ湖の日30周年に関する幅広い啓発、情報発信
- びわ湖の価値やびわ湖の日の意義を考えるきっかけづくり
- びわ湖のこれまでの取組をふりかえり、今後を考える機会

びわ湖の日の多様な環境活動が継続

びわ湖の日の目指す姿

県民、事業者、行政等が一丸となって広く環境の保全についての理解と認識を深め、環境の保全に関する活動に取り組み、県民等がびわ湖とつながり、びわ湖と生きていることを感じることができる日

事業の概要

びわ湖の価値やびわ湖の日の意義
を考えるきっかけづくり

湖魚を 食べる

【「びわ湖の日にびわ湖の恵みを
いただく」推進事業】

びわ湖の日の前の土日に、県下各地朝市などで漁場直送のコアコ鮮魚の提供、佃煮試食、レシピ配布などを行い、各家庭でコアコの佃煮を作って食べる文化を発祥させます。また、湖魚を県内の学校給食として児童生徒等に提供します。

(予算額 6,909千円)



(成安造形大学 長尾直美さん 作)

森を みる

【(仮称) 琵琶湖を支える水源の
森林づくり活動報告事業】

琵琶湖と森林を理解する体験ツアーを企画し、琵琶湖のさらに上流に位置する水源林やその森林づくりの視点から、琵琶湖の価値を再確認する機会とします。

(予算額 788千円)



(成安造形大学 木下千尋さん 作)

琵琶湖 ルール

【滋賀県・日釣振合同釣大会事業】

釣りを専門とする団体との共同開催により、参加者を拡大し、釣り上げたブルーギルのフライと魚の堆肥で育てた野菜を食べてもらい、琵琶湖の生態系に対する理解を深める機会とします。

(予算額 1,000千円)

びわ湖のこれまでの取組をふりかえり、
今後を考える機会

これからの びわ湖を 考える

【記念シンポジウム開催事業】

びわ湖を守る取組の軌跡、びわ湖を美しくする運動の取組の現状、マザーレイク21計画第2期計画の展望等の講演を含めたびわ湖の日30周年記念シンポジウムを開催します。(予算額 4,535千円)

「びわ湖の日」30周年を機に平成23年度後半、「マザーレイク 恵み豊かな琵琶湖」をテーマとして地方自治法施行60周年記念貨幣(滋賀県)の発行が決定しました。記念貨幣(千円貨幣)の発行枚数10万枚の販売により、「地方分権振興交付金」を活用します。

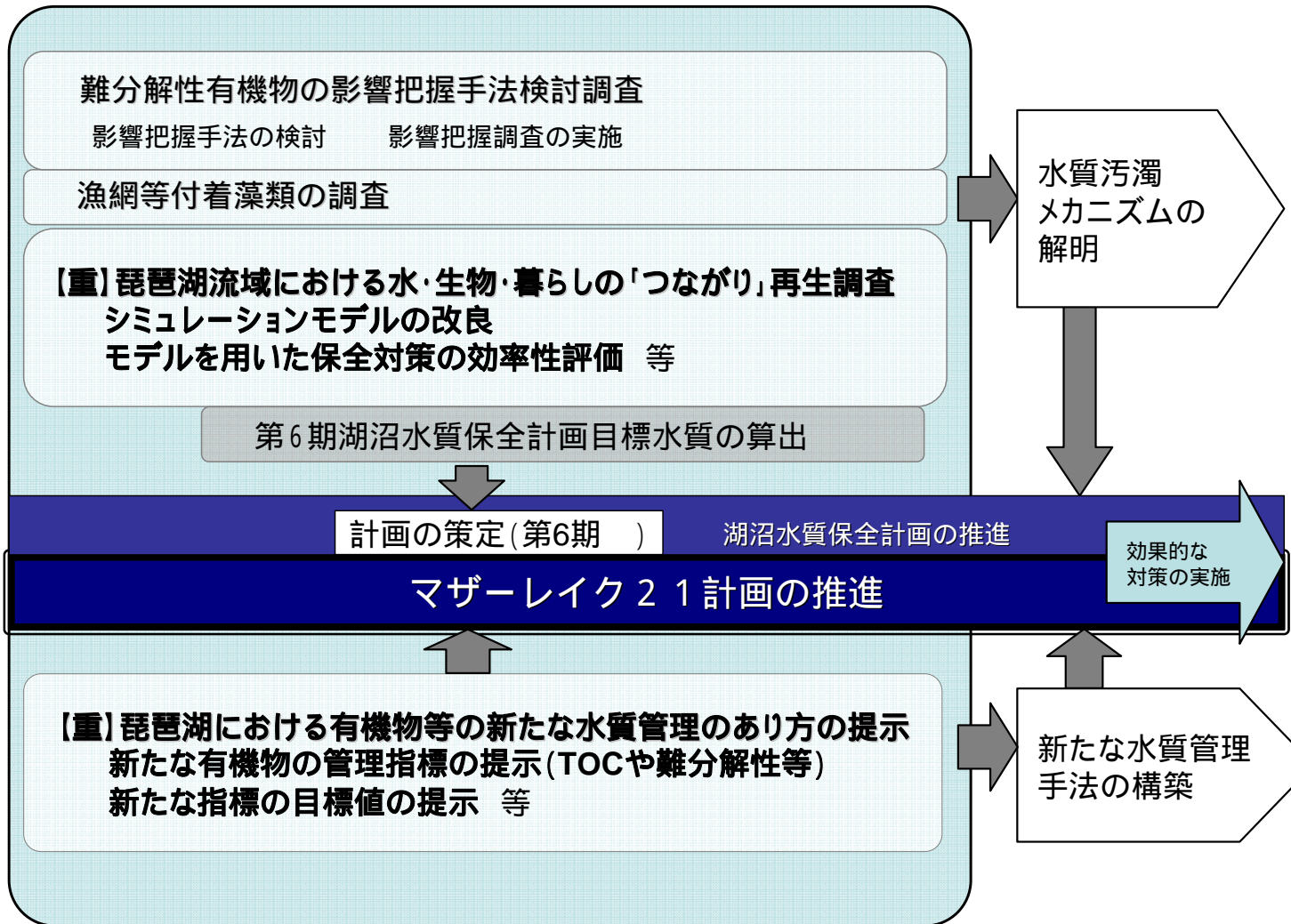
琵琶湖の総合保全に向けての調査・研究

資 - 琵琶環2
琵琶湖再生課
内線3461
琵琶湖環境科学
研究センター
077-526-4800

水質汚濁メカニズム解明調査

【予算額 32,092千円】

効果的な水質保全対策を進めるためには、琵琶湖の汚濁メカニズムの解明と新たな水質管理手法の構築が必要であることから、難分解性有機物を考慮に入れたTOCによる新たなシミュレーションモデルを構築し、琵琶湖の有機汚濁のメカニズムを明らかにする。また、新たな指標の検討を行い、水質管理の手法を構築する。調査の成果は、マザーレイク21計画や平成23年度に策定予定の第6期湖沼水質保全計画などに活用する。



琵琶湖深湖底低酸素化と生物の関係究明

【予算額 9,543千円】

北湖において顕在化している課題（求められるニーズ）

- ↓ 深水層における低酸素化の発生頻度の増加
- 低酸素時代に深底部での魚死骸の発見（2007年12月）
- 低酸素化が生物にどのような影響を与えるのか？
- 解明のみならず関心の高いこの問題について共有する必要

取組内容（関係解明への道筋）

- ↓ 北湖深底部の主な底生生物およびバクテリアの生物量の把握
- 低・無酸素状態について予測されるシナリオに基づく生物群集への影響予測・評価

得ようとする成果（もたらされる効果）

低酸素化対策を効果的効率的に検討するための知識基盤の構築



水中有索ロボットによる底質や生物生息状況の画像データ収集

南湖生態系の順応的管理方法の検討

【予算額 18,615千円】

南湖生態系保全・再生の目的（求められるニーズ）

南湖の現状における課題



水草大量繁茂

- 船舶の航路障害
- 流れ藻の漂着・悪臭に対する苦情・景観悪化
- 湖流の停滞・溶存酸素の低下

自然的湖岸の減少に伴う生物生息環境の変化

特定外来生物の分布域拡大

↳ 底生生物・在来魚介類への影響

生態系保全、水質保全、水産振興など多面的な要件を満たすことが必要
長期的な視野に立って南湖全体を総合的に評価する順応的管理方法が必要

取組内容（課題解決への道筋）

【南湖全体把握のための現況調査】

【南湖の現状課題への対応策検討】 ~ 水草対策事業等の効果を評価するための指標を検討 ~

【順応的管理に向けた制度の基礎的把握】

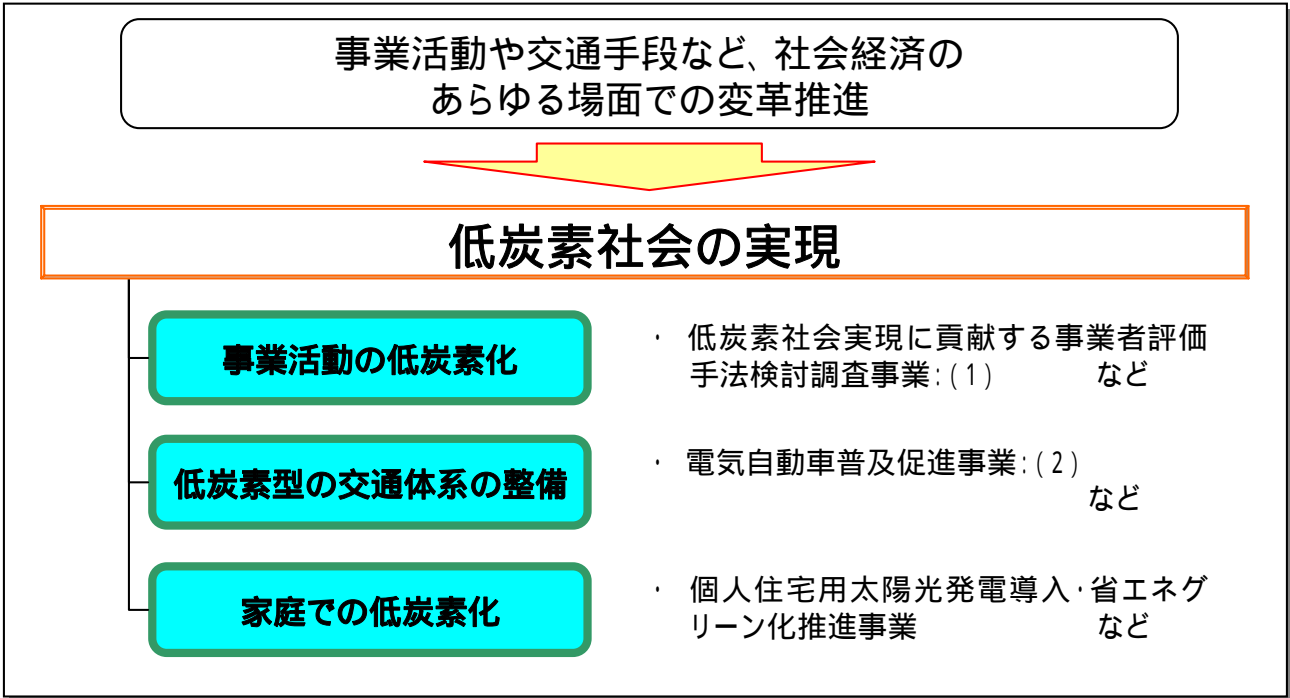
得ようとする成果（もたらされる効果）

『南湖管理のガイドライン』の提示

- ・南湖全体を管理していくための評価指標と保全・管理目標
- ・南湖を場とする施策事業における順応的管理手法の構築



(仮称)「滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例」の制定



(1) 低炭素社会実現に貢献する事業者評価手法検討調査事業

【予算額 14,500千円】

低炭素社会づくりに向けた事業活動に係る計画等の届出制度の導入

県内環境産業の低炭素社会への貢献が見える化

低炭素社会構築に資する事業活動（環境製品の製造・普及等）に係る評価手法の検討
（検討会における検討、検討に必要なデータ収集）
事業者の低炭素化に係る技術支援のためのマニュアルの作成等



(2) 電気自動車普及促進事業

【予算額 53,393千円】

1 事業の目的

低炭素社会の実現に向けて、滋賀県における二酸化炭素排出量の23%を占める運輸部門の対策を推進するため、走行時に二酸化炭素を排出しない電気自動車等の普及を促進する。

2 事業の概要

メーカーや電力事業者など多様な主体との連携を図りながら、「知る」「体感する」「体験する」機会の提供により初期需要の創出を図っていくとともに、安心して走行できる環境を整えるため、充電インフラの整備を進める。

(1) 推進体制の運営

メーカー、電力事業者、学識経験者、自治体等の参画による推進体制の運営

115千円

(グリーンニューディール基金活用)

(3) 充電インフラの整備

200V充電設備

県設置 20基
民間(1/3補助) 140基
<プラグイン・ハイブリッド車にも対応>

急速充電器 3基

41,000千円



(2) 初期需要の創出

タクシー車両(デマンドタクシー、観光タクシー等含む)等への電気自動車導入補助制度の創設

(1台あたり75万円を限度)
交付予定台数 10台

7,500千円

環境関連イベント等への県公用車の貸し出し、メーカー、電力事業者等と連携した観光イベント等での展示、試乗会の開催

(啓発用冊子の作成等) 500千円



県庁公用車-地方機関-への率先導入

(1台) 4,278千円

関西広域連合での取組による
広がり
広域充電マップの作成
など

プレジャーボートへの適合証貼付促進事業

【予算額 5,274千円】

1 事業の目的

条例に適合する原動機を搭載していることを識別するため、琵琶湖で航行するプレジャーボートに「適合証」の表示を義務付ける制度を、条例改正により導入する。

県内のマリン関係団体に協力を求め、保管艇への適合証貼付を促進し、あわせて環境適合艇の普及を進め、琵琶湖と共生するマリンレジャーを広める。

2 事業の概要

琵琶湖のプレジャーボート利用者に、適合証を抵抗なく貼ってもらえるよう、デザインの公募を行う。県内の関係3団体に協力を求め、本年10月から保管艇への貼付を進める。平成24年上期には持込艇への啓発を進め、同年10月から表示を義務づける。

(1)デザインの公募・決定

プレジャーボート利用者も含め、広くデザインの募集を行い、マリーナ・PWC関係者の参画で決定する。

(2)適合証の印刷

水上オートバイとモーターボートの2種類の適合証を印刷し、平成23年10月から交付を始める。

(3)適合証の貼付促進

無料交付期間の設定
平成24年9月までを無料交付期間とし、貼付を促進する。

指定保管業者の認定
適合艇所有者の他、知事が適切と認め指定する保管業者からの申請により、適合証を交付する。

(4)環境適合艇普及促進交付金

関係3団体との連携による早期貼付
ユーザーへのDM
店頭での保管者への説明
パンフレット・パネルの作成
関係団体による条例啓発事業
試乗会、展示会の開催



関係3団体

滋賀県小型船協会
滋賀県フィッシングボート協同組合
PW安全協会琵琶湖支部

PWC(パーソナルウォータークラフト)
…水上オートバイ

(新) 巨樹・巨木の森整備事業について

資 - 琵琶5

自然環境
保全課
内線3481

【予算額 5,000千円】

1. 事業の目的

巨樹・巨木の森は、豊かな自然環境や、地域に根付いてきた森林と一体になった暮らしの象徴

その巨樹・巨木の森を保全し、地域の良好な環境の核として位置づけ、県民が豊かな森林環境に気軽に親しみ、学びの場として活用できるようにする



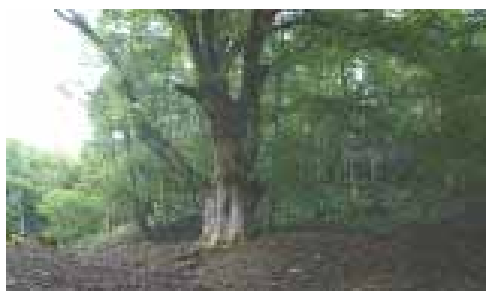
2. 事業内容

市町と森林所有者等との間の、次世代に残すべきとする巨樹・巨木の保全のための協定に基づき実施される保全活動、周辺整備の実施に対して支援を行う。

< 交付対象事業 >

- (1) 巨木周辺環境整備: 歩道整備、周辺整備、看板設置、巨木の計測
- (2) 伐採しないことに対する保全協力費、巡視経費

3. 平成23年度の実施について



滋賀県

